



第 154 号

—令和 7 年 9 月 20 日発行—

公益財団法人 古代学協会だより

藤原実資 小野宮第址 顕彰碑

大河ドラマ『光る君へ』でのロバート秋山氏の好演により、多くの方に知られることとなった「藤原実資」。実資は資産家で、広大な「小野宮第」に居て右大臣を務めていたため、「小野宮右府」とも称



された。このたび、株式会社都市ガバナンス研究所が製作監修し、「小野宮第」の跡地に顕彰する石碑と案内板を設置した。場所は夷川通の烏丸通西入ルで、方一町(約1.4ha)の規模に及んだ「小野宮第」の南端に当たる(ホテル「&gate」京都丸太町「門前」)。

実資は日記『小右記』の著者として知られ、同時代の絶対権力者たる「御堂関白」藤原道長とは協調しつつも、筋を通す言動を貫いたことで「賢人」と讃えられた。また、『小右記』からは、実資が「小野宮第」に絶えず造作の手を入れていた様子がうかがえ、寝殿を中心に北、東、西に対屋、それに南庭と池、念誦堂を配置した邸第は、『枕草子』にも記されたほど堂々たるものであった。

近年の旧京都商工会議所移転に伴う発掘調査結果を踏まえ、池が南庭の南から敷地北東にまで深く入り込んでいたことを含め、推定再現パースを作成。現地案内板のほか、以上の「小野宮第」に関する詳細な解説や再現パースなどを「小野宮デジタルギャラリー」として公開している(<http://toshi-governance.co.jp/pj3.html>)。現地でもご覧いただければ幸いです。

竹井隆人

(株)都市ガバナンス研究所代表

▼ 第十二回角田文衛古代学奨励賞受賞

記念講演会の開催のお知らせ

同賞は、前年、前々年度2カ年の季刊『古代文化』への投稿論文（論攷、研究ノート）の中から秀作を選び授与される、若手古代史研究者のための研究奨励賞です。本年度は、第十二回目にあたります。受賞者は、越川真人氏（東京大学史料編纂所 古代史料学術専門職員）が選ばれました。受賞論文は、「平安時代中・後期の牛飼童と貴族社会」（『古代文化』第七六巻二号、二〇二四年九月刊行）。

十一月一日（土）授賞式および記念講演を開催します。申込不要、入場無料、定員八十名。午後一時～三時四十分（受付十二時半より）会場 同志社女子大学今出川キャンパス ジェームズ館 2階J207教室

（京都市上京区今出川通寺町西入ル玄
武町六〇二・一）地下鉄今出川駅下車
徒歩五分

授賞式 午後一時（臈谷壽理事長より賞状と

記念品の授与）

受賞者講演 一時十五分～二時

越川真人 「牛飼と牛車から読み解く平安京
の都市社会」

関連講演 野口孝子（古代学協会客員研究員）

「関寺の牛仏 牛に化身する仏・牛仏

への貴族たちの思い」

最後に登壇者によるディスカッションを行います。司会は山田邦和（古代学協会副理事長、同志社女子大学特任教授）。

皆様のご参加をお待ちしています。お問合せは古代学協会事務局まで。

▼ 小野宮第址顕彰碑および解説板の
除幕式の開催

本号表紙にも紹介の通り、小野宮第址顕彰碑および解説板が設置され、七月十二日（土）その除幕式が開催されました。

本碑は、株式会社マリモ様が烏丸夷川西入ルにオープンされる、ホテル「&haka」京都丸太町」の敷地に設置されています。監修は、（株）都市ガバナンス研究所代表 竹井隆人氏。古代学協会は京都市とともに協力をさせていただきました。永年、当協会でも小野宮第の顕彰碑の設置を願い、適地を探していましたがビルが建て混む地域であり、半ば諦めかけておりました。そのような中で、今回、竹井氏よりご相談を受けたことは大変嬉しいことでした。

小野宮第は『小右記』を著した藤原実資の邸第として知られ、一町（約二二〇メートル）四方に及ぶ規模で、実資の時代には、堂々たる「名第」として知られていたといえます。式は株式会社らくたび代表取締役 山村純也氏の司会のもと、（株）マリモ執行役員 端正敏氏のご挨拶、また京都市文化財保護課長 森尾勇三氏からお



左より臈谷理事長、竹井隆人氏、山田副理事長

言葉を賜り、当協会理事長 臈谷壽より藤原実資についての解説がありました。

続いて（株）都市ガバナンス研究所代表 竹井隆人氏と臈谷理事長によって除幕がおこなわれました。次に、当協会副理事長 山田邦和から、小野宮第の説明および顕彰碑設置の重要性と難しさについて話を致しました。また、サブライズとして、ロバート秋山氏からいただいた祝辞を読み上げたことで、会場は大いに盛り上がりました。

今回、監修・設置に尽力された竹井様はじめ、ご協力を賜った（株）マリモ様には敬意と感謝の意を表したいと存じます。

近くにお越しの際は、是非お立ち寄りいただき、往時に思いを馳せていただければ幸いです。

▼第五回古典の日文化基金賞

二〇二四年刊行の古代学協会監修『史実であつた紫式部——『源氏物語』は、こうして生まれた。』の著者のお一人、山本淳子氏（京都先端科学大学教授）と 中田 昭氏（写真家）が、第五回古典の日文化基金賞を受賞されました。九月三日（水）京都市左京区 京都コンサートホール アンサンブルホール ムラタにおいて授賞式が開催されました。

文化基金賞は二〇二二年、十一月一日が「古典の日」に制定されたのを記念して古典文化の研究、普及啓発活動に貢献した個人、法人、団体を顕彰することを目的としています。古典の日文化基金賞顕彰委員会は、二〇二〇年の設立以来その運営にあたられています。



山本氏は文学・思想分野において、中田氏は美術・生活文化分野、また伝統芸能・音楽分野において木ノ下裕一氏（木ノ下歌舞伎主宰）が選ばれました。

▼二〇二五年度後期古代学講座の申込の開始
後期講座のラインナップは次の通り。内容、申込状況は、協会ホームページ、あるいはお電話でご確認ください。

縄文時代の考古学 矢野健一（立命館大学特別任用教授）
『源氏物語絵巻』を読む——概観及び「蓬生」の精読——

中島和歌子（京都女子大学文学部教授）

座学と現地散策で学ぶ考古学の成果 梶川敏夫（元京都市考古資料館館長）

桓武朝の歴史考古学 山中章（三重大学名誉教授）

天皇陵研究の最前線 山田邦和（同志社女子大学特任教授、古代学協会副理事長）

探求!!古墳時代の群集墳をめぐる謎 森岡秀人（古代学協会客員研究員）

大正・昭和初期の古都京都 近代から現代へ

高木博志（京都大学人文科学研究所名誉教授）

北野天神信仰の文化史 西山 剛（京都文化博物館主任学芸員、北野文化研究所特別研究員）

古代の日朝関係史 田中俊明（滋賀県立大学名誉教授）

『小右記』講読——平安貴族の日常に触れてみよう——

野口孝子（古代学協会客員研究員）

平安王朝の歴史と文化 臈谷 寿（同志社女子大学名誉教授、古代学協会理事）

出版だより

法蔵館文庫 角田文衛著『承香殿の女御復元された源氏物語の世界』

本書は、一九六三年に中公新書として刊行され、その後二〇一八年に著作集『角田文衛の古代学Ⅰ 後宮と女性』に収録されている。

その折、責任編集を担われた吉川真司先

生（京都大学名誉教授）が五百近い註に引用されている史料を逐一原典と照らし合わせ、誤りをただされた。今回は、この「完全版」が法蔵館文庫として一般読者向けに出版されたのは嬉しいことである。一条朝の後宮と言え、藤原定子、藤原彰子にばかりスポットライトが当たっているが、本書ではその栄華の陰にあり「いと時めき給わぬ女御」藤原元子の喜びや悲しみに彩られた一生を余すところなく描いている。父である、左大臣藤原顕光に関する描写も心の起伏に分け入って、その生き様を活写している。

巻末の上原作和先生（元明星大学教授）による「解説角田古代学の真骨頂」も本書を深く味わう上で読者の理解を助ける力となっている。生前の角田先生との出会いのエピソードも心温まる思いがする。

法蔵館文庫では、二〇二〇年、角田先生の『平安人物史』（上）（下）も刊行されている。今回も「復元された源氏物語の世界」を生き活きと描ききった名著の、装い新たな登場を心から喜ぶたい。

法蔵館、二〇二五年八月刊、一三一頁、一一〇〇円＋税、ISBN 978-4-8318-2706-7

代学Ⅰ 後宮と女性』に収録されている。

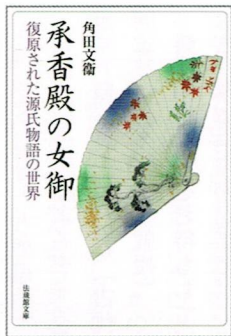
その折、責任編集を担われた吉川真司先

生（京都大学名誉教授）が五百近い註に引用されている史料を逐一原典と照らし合わせ、誤りをただされた。今回は、この「完全版」が法蔵館文庫として一般読者向けに出版されたのは嬉しいことである。一条朝の後宮と言え、藤原定子、藤原彰子にばかりスポットライトが当たっているが、本書ではその栄華の陰にあり「いと時めき給わぬ女御」藤原元子の喜びや悲しみに彩られた一生を余すところなく描いている。父である、左大臣藤原顕光に関する描写も心の起伏に分け入って、その生き様を活写している。

巻末の上原作和先生（元明星大学教授）による「解説角田古代学の真骨頂」も本書を深く味わう上で読者の理解を助ける力となっている。生前の角田先生との出会いのエピソードも心温まる思いがする。

法蔵館文庫では、二〇二〇年、角田先生の『平安人物史』（上）（下）も刊行されている。今回も「復元された源氏物語の世界」を生き活きと描ききった名著の、装い新たな登場を心から喜ぶたい。

法蔵館、二〇二五年八月刊、一三一頁、一一〇〇円＋税、ISBN 978-4-8318-2706-7



角田文衛
承香殿の女御
復元された源氏物語の世界

発行者 公益財団法人 古代学協会

京都市中京区三条通高倉西入ル
菱屋町四八

電話〇七五-二五二-三〇〇〇

発行日 令和七年九月二十日

編集 公益財団法人 古代学協会 企画部